

令和二年歌会始御製御歌及び詠進歌

望

御製

学舎まなびやにひびかふ子らの弾む声さやけくあれとひたすら望む

皇后陛下御歌

災ひより立ち上がらむとする人に若きらの力希望もたらす

皇嗣殿下

祖父宮おほぢみやと望みし那須たかじの高処より煌めく銀河に心躍らす

皇嗣妃殿下

高台に移れる校舎のきざはしに子らの咲かせし向日葵ひまわり望む

眞子内親王殿下

望月に月の兎が棲まふかと思ふ心を持ちつぎゆかな

佳子内親王殿下

六年間歩きつづけし通学路みかさやま三笠山より望みてたどる

正仁親王妃華子殿下

ご即位の儀式に望みいにしへの装ひまとひ背せなを正ただせり

寛仁親王妃信子殿下

雪ゆき襷ひだをさやかに望む富士め愛めでて平和な御代のはじまりにあふ

彬子女王殿下

言の葉のたゆたふ湖の水際から漕ぎ出ださむと望月の舟

憲仁親王妃久子殿下

サッカーに関はりたれば五輪への出場国をひた待ち望む

承子女王殿下

初めての展望台にはしやぐ子の父母とつなぎあふ小さな両手

御 製

まなびや
学舎にひびかふ子らの弾む声さやけくあれとひたすら望む

天皇后両陛下には、皇太子同妃両殿下時代より度々子供たちの集う施設や学校などを御訪問になつていきます。令和元年六月には、東京都港区の麻布保育園を訪れられ、子供たちが元気に遊ぶ姿を御覧になりました。また十一月には、愛子内親王殿下がご通学になつてゐる学習院女子中・高等科の文化祭を訪れられ、中高生の生き生きとした姿を喜ばしく思われました。この御製は、そのようなおふれあいのたびに、子供たちの将来が明るくなつてほしいと願われるお気持ちをお詠みになつたものです。

皇后陛下御歌

災ひより立ち上がらむとする人に若きらの力希望もたらす

天皇后両陛下には、毎年のように自然災害の被災地をお訪ねになり、被災された人々と間近にお会いになつて励まされています。平成三十年には、前年の豪雨により被災した福岡県朝倉市を、令和元年暮れには、十月の台風第十九号等により被災した宮城県丸森町と福島県本宮市を訪れられて、被災状況を、ご視察になるとともに、被災された人々をお見舞いになりました。この御歌は、災害による被害に深くお心を痛められながらも、各地で高校生など若い人たちが、ボランティアとして後片付けや復旧の手伝いを献身的に行い、人々に復興の希望と勇気を与えていることを頼もしくお思ひになり、お詠みになつたものです。

皇嗣殿下

祖父宮と望みし那須の高処より煌めく銀河に心躍らす

秋篠宮皇嗣殿下が那須御用邸で昭和天皇と香淳皇后にご挨拶にいらつしやつた折、昭和天皇が屋上へ誘われました。屋上は真つ暗でしたが、空を見上げるとたくさんの星が見えたそうです。当時の東京よりもはるかに綺麗な空をご覧になって心が躍ったことを想い出され、このお歌をお詠みになりました。

皇嗣妃殿下

高台に移れる校舎のきざはしに子らの咲かせし向日葵望む

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、昨秋、東日本大震災の復興状況のご視察とラグビーワールドカップ2019日本大会の試合ご観戦のために、岩手県釜石市を訪問されました。その折、震災後に高台へ移転した小中学校の校舎へと続く長い階段に、子どもたちが育てたひまわりの鉢が並ぶ様子を下から望まれる機会がありました。ひまわりに迎えられ、明るい気持ちになられたことを思い出されながら、歌をお詠みになりました。

眞子内親王殿下

望月に月の兎が棲まふかと思ふ心を持ちつぎゆかな

眞子内親王殿下は、月にウサギがいるという伝承を幼い頃にお聞きになり、その情景を想像されたことがおありでした。年齢を重ねるごとに、そうした想像力が乏しくなるように思われる寂しさと、豊かな想像力をいつまでも持ち続けることへの憧憬を感じながら、この歌をお詠みになりました。

佳子内親王殿下

六年間歩きつづけし通学路三笠山みかさやまより望みてたどる

佳子内親王殿下は、赤坂御用地をご散策の折に、御用地内にある三笠山から、以前通われていた小学校への通学路をご覧になりました。六年間歩き続けた道を懐かしく思われたいお気持ちを歌にお詠みになりました。

正仁親王妃華子殿下

ご即位の儀式に望みにしへの装ひまとひ背せなを正ただせり

寛仁親王妃信子殿下

雪^{ゆき}襷^{ひだ}をさやかに望む富士愛^めでて平和な御代のはじまりにあふ

寛仁親王妃信子殿下には、日本赤十字社山梨県支部創立百三十周年並びに日本赤十字社山梨県有功会創立四十五周年記念 令和元年山梨県赤十字大会にご臨席のため山梨県にお成りになりました。同大会にご臨席になった翌朝、清々^{すがすが}しいお気持ちでお泊所のお部屋の窓辺に立たれると、雲一つない青空で山には白い雪が美しく積もり、裾野には紅葉が敷き詰められている光景が広がっていました。これは、地元でも珍しいと言われる光景であり、この歌に、この時の光景を重ね合わせ、天皇皇后両陛下の新しい御代の平安を願われ、お詠みになりました。

彬子女王殿下

言の葉のたゆたふ湖の水際から漕ぎ出ださむと望月の舟

昨秋、ご友人とお月見をされた折、池に映った月をご覧になつて詠まれたものです。

憲仁親王妃久子殿下

サッカーに関はりたれば五輪への出場国をひた待ち望む

日本サッカー協会の名誉総裁を務めておられ、その関係からも令和二年に開催されるオリンピック・パラリンピック出場国を心待ちにしていらつしやるお気持ちを詠まれたものです。

承子女王殿下

初めての展望台にはしやぐ子の父母とつなぎあふ小さな両手

展望台にて、窓際に立つご友人夫妻と二歳のご子息を後
ろからご覧になっていた時の様子を詠まれたものです。

召人 栗木京子

観覧車ゆふべの空をめぐりをりこれからかなふ望み灯して

召人控 加賀乙彦

いねぎはに妻の遺影に目を合はせ天への旅の無事望む夜

選者 篠 弘

書き上げし稿^{かう}祈りてはファックスす望外なことを近頃はじむ

選者 三枝昂之

丘陵に街に暮らしの歩をとめて人は仰げり望月立てり

選者 永田和宏

なだらかな比叡の肩を照らしつつ昇る^{きばう}幾望の、はた^{きばう}既望の月

選者 今野寿美

港から汽笛とどけば手にとれる望遠鏡なり蝶々夫人も

選者 内藤 明

新しき靴履きて立つ街角にわが望郷の方位をさがす

選 歌 (詠進者生年月日順)

三重県 森 紀子

茶刈機のエンジン音は響^{ひび}かひて彼方に望む春の伊勢湾

埼玉県 若山 巖

百アールの田圃アートの出来映えを眺望するに櫓を組みぬ

東京都 保立牧子

創薬の望みを託す天空の「きぼう」の軌道に国境はなき

福岡県 石井信男

息を止め望遠鏡で本物の土星の環を見た夏の校庭

福岡県 粟屋融子

ランドセルは海渡りゆくアフガンの子らの希望を抱き留むるため

長崎県 柴山与志朗

望もちの日は漁師の父が家にゐて家族四人で夕餉を囲む

山形県 村上秀夫

それぞれに月傾けて子どもらは墨くろぐると「望」の字を書く

神奈川県 森 教子

今よりも人々の文字うつくしき平和を望む戦時下の日記

大阪府 土田真弓

眺望はどうだ晩夏に鳴く蟬を啜へて高く高く飛ぶ鳥

新潟県 篠田朱里

助手席で進路希望を話す時母は静かにラジオを消した

佳 作 (詠進者生年月日順)

島根県 中島文子

病院の窓より望む宍道湖のもやにかすみて蜩舟浮く

埼玉県 村田芳枝

若き日はいただき望み登りしが今は車窓に全景を見る

宮城県 高橋美枝子

望^{もち}の潮しづかに湛へ仙台港最終フェリーの灯の滑りゆく

東京都 横森貞夫

遥かなる縄文人もせしといふ阿蘇の野焼きを丘より望む

埼玉県 坂本守央

北斎の望みし富士の雪消えて万年橋を川舟はゆく

高知県 安光セツ子

アメリカより来しとふ遍路加はりて展望台に渡り鷹待つ

長野県 小林邦子

もう一度裸足で水田^{みづた}に入りたい七十八歳の小さな望み

茨城県 園部啓子

島の生徒ひとりの望みかなふ日よ助^{すけつと}つ人が来て野球はじまる

愛媛県 園部 淳

その後に私が生まれることとなる引揚棧橋眼下に望む

栃木県 染宮千美

望むこと望まざること引き受けて桜は咲きぬ被災地の春

山口県 長谷部奈美江

あれがベガ父が動かす望遠鏡見えるふりした少年の夏

愛知県 伊藤麻希子

待望の外出許可を得し父のもう家に居るやうな横顔

新潟県 山本真弓

潟の字の隙間の幅を整へて第一志望願書に記す

兵庫県 矢倉ゆう

実習のための絵本を選びながら保育士志望のこころ定まる

兵庫県 山田竜輔

六甲の頂からの眺望は見なれた町の知らない景色

新潟県 川崎ひかり

デルフトの眺望にある川の絵は教会の影反射してゐる

山梨県 湊 恵万

望月の明かり差し込むこの部屋はまるで水槽呼吸を止める